

2021年度筑波大学附属図書館の活動

チャットレファレンス（試行）の開始

学習支援



チャットレファレンス開始画面

2021年3月にチャットレファレンスの試行を開始しました。利用者から見たチャットの利点として、特に準備や予約が必要なく、図書館Webサイトからすぐに質問できること、また、すぐに応答が得られ、待ち時間が少ないことがあります。

試行開始から80件以上の質問が寄せられましたが、質問に対しては各館の職員が持ち回りで対応しており、可能な限り素早い反応を心掛けています。質問内容に応じて、関係する係にも相談するなどして適切な回答を行っています。

2022年1月からは自動で応答するチャットボットの運用も開始し、さらなる利便性の向上を目指しています。

文献複写自宅宛郵送におけるクレジットカード決済の導入

学習支援



クレジットカード決済広報ポスター

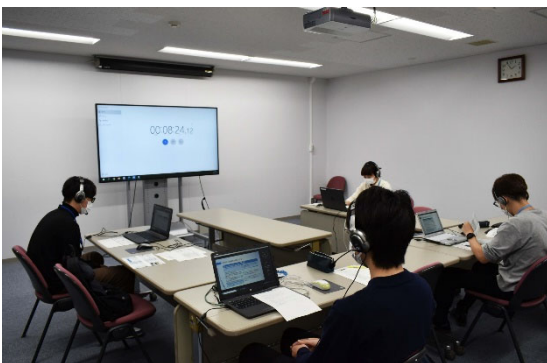
2021年9月より、文献複写物の自宅宛郵送において、決済代行サービスを利用したクレジットカード決済を導入しました。

当館のクレジットカード払いは、インターネット上で手続きを行うものです。文献複写の申し込み後、図書館からの案内を受けてマイライブラリに記載されたURLにアクセスし、ご自身で支払い手続きを行います。

自宅で行うことができる利便性や、現金書留による現金の送付手続きの省略、入手までの日数が短縮されるなどのメリットから、現在はクレジットカード払いを選択する方がほとんどとなり、開始から130件以上の利用がありました。

附属図書館ラーニング・アドバイザーによるオンラインセミナーの開催

学習支援



オンラインセミナー実施風景

2021年10月13日、中央図書館の学生サポートデスクで活動するラーニング・アドバイザー（LA）が、LAセミナー「ためになる卒論・修論エピソード～執筆作業から息抜きまで～」をオンラインで開催しました。LA自身の卒論・修論執筆経験に基づきプレゼンテーションや質疑応答を行い、論文執筆について考える機会を提供する企画です。当日は55名が参加しました。

同時双方向でのオンラインセミナーは初の試みでしたが、参加者アンケートには「論文執筆のイメージがつかめた」「実際の経験や具体的な方法が参考になった」等の感想が寄せられ、満足度の高いものとなりました。資料や当日の様子をWebに掲載しています。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/support/la#more>

全学計算機端末の利用再開

学習支援

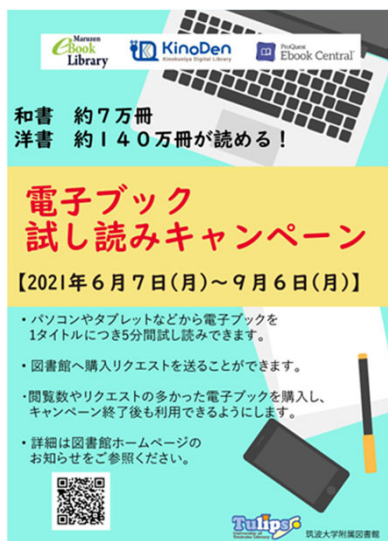


全学計算機端末パネル設置

附属図書館には5館あわせて212台の全学計算機端末が設置されています。中央図書館にはその半数近くの101台があり、大学内のサテライトの中では圧倒的に高い利用率となっていました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、学術情報メディアセンターの方針に基づいて2020年4月20日から端末・プリンタの利用を停止していましたが、消毒液設置等の感染症対策をとったうえで2021年6月22日からプリンタの利用を再開しました。更に端末の側にパーテーションを設置するなどの対策を行い、11月1日から端末の利用も再開することができました。利用者同士の間隔をあけるために利用可能な端末を制限しており、使える端末数は通常よりも少なくなっていますが、毎日プリンタ、キーボード、マウス等の消毒を行い、安心して利用できるように努めています。

電子ブック試読キャンペーンの実施

学習支援



大学から配分を受けた特別予算を活用し、電子ブック試読キャンペーンを実施しました。キャンペーンは、Maruzen eBook Library（丸善雄松堂）、KinoDen（紀伊國屋書店）、ProQuest Ebook Central（ProQuest）の3つのサイトで提供されている電子ブック（和書7万、洋書140万冊）を1タイトルにつき5分間自由に読むことができるというものです。2021年6月7日から10月6日までの4か月間実施し、アクセス数やリクエストの多かった電子ブック121点については購入し制限なく読めるようにしました。これによりコロナ禍におけるオンライン教育・学習を支援するとともに需要に基づいた電子ブックの整備を行うことができました。

キャンペーンポスター

2021年度附属図書館研究開発室の活動

研究支援



附属図書館研究開発室成果報告ポスター

研究開発室では、学内の教員と図書館職員等が協力して、図書館機能、貴重図書の保存・公開、図書館の教育研究支援の3つのテーマに係る調査・研究、および学術情報の収集・発信等の制度的・技術的課題の研究・開発を中心に活動しています。

令和3年度は、室長と12名の室員により、役に立つ大学図書館を目指し、8つのプロジェクトにおいて企画作成とその実施を行いました。

今年度の各プロジェクトの研究成果報告は、報告会の開催ではなく中央図書館2階ラーニングスクエアでのポスター掲示とWeb公開形式としました。コロナウイルス感染症対策のため十分な活動ができなかったプロジェクトについては、これまでの活動をまとめました。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/about/rdo/2021posters>

新規購入の主な教育研究学術資料

研究支援



オンライン版 全国商工会議所関係資料

人文社会系コレクションとして、「オンライン版 全国商工会議所関係資料」ほか4点を購入しました。同資料は、各地の商業・商工会議所で発行された逐次刊行物や調査報告等を収録したデータベースで、明治中期から戦時末期に至る地域経済の実態を知ることができる第一級の資料群です。今回、研究大学強化促進事業からの配分と合わせ、全国、北海道/東北、関東、中部、中国/四国地域を整備しました。

このほか、「東洋経済新報/週刊東洋経済デジタルアーカイブズ(1895-2015)」、継続して整備しているSpringer社の電子ブック(Computer Science 2021刊行分 約1,170点)等も研究大学強化促進事業経費等により整備しました。

令和3年度附属図書館特別展「時を数(よ)む - 紀年・暦法・元号 -」を開催

社会貢献



令和の出典の展示(万葉集)

2021年11月8日から12月3日まで、中央図書館において特別展を開催し、日本の元号と暦の成立に関する資料、明治から令和に至る元号の典拠資料、神武天皇即位紀元に関する資料など貴重な資料を展示しました。古代に始まる時を刻む人々の営為の成立から、現代日本における元号「令和」に至る紀年・暦法をめぐる文化までを広く紹介しました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響があり実展示が行えませんでした。今年度は感染対策を取りながら学内者限定で公開し、900名以上の観覧がありました。

狩野山雪筆「歴聖大儒像」の修復

社会貢献



「歴聖大儒像」補修の様子

「歴聖大儒像」は、寛永9(1632)年に、狩野山雪によって描かれた儒者の肖像画で、その制作にあたっては林羅山らが関わったとされる貴重な資料です。本学所蔵の宋儒6幅は、湯島聖堂における実際の積奠に使用されたもので、損傷等の状態を考慮すると現状のままでの公開は困難となっていたため、朝日新聞文化財団、出光文化福祉財団、住友財団からの修復助成を受けて2019～2021年度に保存修復作業を実施しました。

2022年3月には、3年間にわたる本格解体修理が終了し、5月には修復完成記念として特別公開を行う予定です。修復後の「歴聖大儒像」を展示し、本学の貴重な学術資料を広く公開いたします。

オンラインでの大学図書館職員長期研修の開催

社会貢献



班別討議発表風景

2021年7月5日から7月16日に大学図書館職員長期研修を開催しました。2021年度は初のオンライン開催となり、全国の大学・関係機関の図書館から35名が参加しました。研修では講師による大学や大学図書館に関する講義のほか、グループに分かれてのワークショップや班別討議が行われました。

開催後のアンケートでは、「オンラインでも対面とほぼ同様に班別討議ができた」「家や職場を離れることが難しいため、オンラインで参加できてよかった」など、オンラインによる開催に好意的な意見が多かった一方、受講者同士の交流の難しさについての声も多く上がりました。次年度は、受講者同士の交流を促すツールの活用など、今回出てきた課題を踏まえた上での開催を予定しています。



筑波大学附属図書館からの図書の貸出

2021年6月に筑波大学附属図書館とつくば市立中央図書館との申合せを締結し、相互貸借を開始しました。これまで、茨城県内の公共図書館所蔵の図書を茨城県図書館情報ネットワーク物流搬送システムにより取り寄せて借りることが可能でしたが、到着までに日数がかかることが課題となっていました。つくば市立中央図書館の搬送車を利用することにより、従来よりも1週間程度早く入手できるようになりました。

図書館の館種を超えた連携により、相互に利用できる資料の種類が拡大されました。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/service/area-ill>

筑波大学出版会刊行書籍およびリポジリでの全文公開

情報発信



2021年度刊行書籍

筑波大学出版会は、附属図書館内に事務局を置き、筑波大学の研究成果を発信するため、学術書、教科書、一般教養書等を刊行しています。

2021年度は次の3点が刊行されました。

『筑波大学アート・コレクション 石井コレクション 美をめぐる饗宴』

『視覚障害者のためのスポーツ指導』

『北米先住民族の宗教と神話の世界—歴史と文化交渉の観点から』

また、刊行から一定期間を経た書籍のうち、著者の同意が得られたものについて、附属図書館のつくばリポジリにて全文の無料公開を開始しました。現在の公開タイトルは『危機の神話か神話の危機か』『哲学史の劇場』です。

<https://www.press.tsukuba.ac.jp/repository.html>

つくばリポジリの新システム移行

情報発信



つくばリポジリトップページ

つくばリポジリは、2021年3月に、新 JAIRO Cloud (WEKO3)へとシステム移行いたしました。それまでは JAIRO Cloud(WEKO2)を利用していましたが、提供元である国立情報学研究所(NII)とオープンアクセスリポジリ推進協会(JPCOAR)より打診があり、一足早いバージョンアップとなりました。

新システムは、前システムのよいところを引き継ぎつつも、研究データも登録可能な機能を持つリポジリとのことで、オープンサイエンスが広がりつつある近年に合わせた進化をしています。

システムの差による画面の違いはありますが、登録するデータにより適したメタデータを設定できるなど、自由度が上がっています。

現在、いくつかシステムの不具合が確認されていますが、今後解消され、新システムの本領が発揮できることを期待しています。